

ワークショップ 3.29

第2回「アールの日」by 村片和彦&渡辺三郎

[トップ](#) >> [イベント](#) >> 第2回「アールの日」by 村片和彦&渡辺三郎

このページの情報は、終了した事業に関するものです。



アール・スクラッグスの音楽はバンジョーのみならず、あらゆる楽器の美学に通じる、いわゆる「コツ」と「ツボ」を明確に教えてくれる。ノースカロライナの農家の青年アールが、世界中で受け入れられる楽器奏法を完成させブルーグラスという音楽のスタンダードを創り出した。その過程と手法、その間の社会状況などを理解することによって、音楽を聴く感動と、印象的な音を創る方法を教えてくれる。

……そんな「アール」の音楽を解析しながら、皆さんと一緒に音楽のことを考えたり、弾いたりしませんか？ アールのファン、バンジョー奏者だけでなく、ブルーグラスという音楽の正体を探りたい人、是非ご参加ください。

プログラム開始前後にはジャムも楽しみたいと思います。

日時：3月29日（土）午後2時～6時（午後2時～3時はウォームアップジャムの予定。）

場所：大阪府立 江之子島文化芸術創造センター/enoco

参加費用：¥2,000-（学生¥500-高校生以下無料）

主催：Grassroots Music Workshop

共催：大阪府立 江之子島文化芸術創造センター

後援：梅田ナカイ楽器

問い合わせ先：梅田ナカイ楽器 阪急三番街店 06-6372-9266、Mail: acoinfo@umenaka.com

プログラム

ベーシックなプログラムは以下の予定です。

オープニング“Reuben”

10歳のアールが最初にスリーフィンガーで弾いたと言われる曲

アールとブルーグラス

“Will You Be Loving Another Man”(1946)

現存するもっとも古い録音のひとつ、アールのスリーフィンガーはまだシンプルだ

アール vs ビル・モンロー

“Bluegrass Breakdown vs Foggy Mountain Breakdown”(1947-1949)

ビル・モンローとアール・スクラッグス、さまざまな出来事のひとつ、“Bluegrass Breakdown”は誰が創ったか？ また2年後の“Foggy Mountain Breakdown”との音楽的相違

シラブルで弾くことの意味

“Wreck of Old 97”(1960s)

ジョン・ハートフォードが言った「アールはシラブルで弾く」という意味と実践

アールの音楽性

“We'll Meet Again Sweetheart”(1948)

“Why Don't You Tell Me So?”(1949)

“Roll in my Sweet baby's Arms”(1950)

“Foggy Mountain Special”(1954)

1950年の前後2年間にアールの音楽は完成した

アールのギター

“God Loves His Children”(1948)

“Jimmie Brown, the Newsboy”(1951)

アールのギターはクラレンス・ホワイト直系のルーツ？

円熟

“Foggy Mountain Banjo Medley” (1960)

“Ballad of Jed Clampett”(1962)

アール・スクラッグスの人となり、そして音楽への取り組みなど、偉大なアーティストとしての側面

アメリカ音楽史におけるアール

アール美学

“Hey Jude”(1970)

出演者プロフィール

村片和彦（バンジョー）

1957年大阪府寝屋川市生まれ。

秋元慎バンドのバンジョー奏者として、またアール・スクラッグス奏法のエキスパートとして知られる。

1974年、高校2年生のときにボーイスカウト仲間たちとブルーグラスバンド、ピリグリム・ファーザーズを結成、1975年、関西学院大学入学とともに清水英一（現・梅田ナカイ楽器社長）の立ち上げたアメリカ民謡研究会に所属、世襲バンドノビッコリーホローズ（六代目）をはじめ学内バンドを経て、卒業後しばらく休眠ののち1988年、広田みりの女性ボーカルを軸とした秋元慎バンドのバンジョー奏者を務め、現在に至る。

1989年渡米、アール・スクラッグスのカムバックに合わせて渡米／訪問、ツーショット写真は逃したものの、愛器フローレンタイン・バンジョーをアールが弾く写真を宝物にしている究極のスクラッグス・フリーク。

近年、バンジョーを手にすると「俺、アールやもん！」と言い切るスクラッグス・コピーの達人。



渡辺三郎（バンジョー、ギター、フィドル）

1949年兵庫県宝塚市生まれ。

1983年創刊の月刊ブルーグラス・ジャーナル『ムーンシャイナー』誌編集長。

1971年、ブルーグラス45のバンジョー奏者として全米ツアーを行う。帰国後、ブルーグラスとオールドタイム音楽を専門にしたレコード通販「B.O.M.サービス」とインディー・レーベル「レッド・クレイ・レコード」を創立。トニー・ライスのデビュー作をはじめ日米ブルーグラス・アーティストの紹介に努める。

1972年から野外ブルーグラス・フェスティバル「宝塚ブルーグラス・フェス」を開始し、現在ブルーグラス・フェスとしては世界で三番目に古い歴史を誇る。

1983年から専門月刊誌『ムーンシャイナー』を発行。

1995年にIBMA（国際ブルーグラス音楽協会）から生涯功労賞を贈られる。

1996年から5年間、テネシー州ナッシュビルのIBMA理事。

1998年度『ムーンシャイナー誌』の発行でIBMA最優秀ブルーグラス出版人賞を受賞している。



1970年代からブルーグラス・バンドのほか、数々のロック／ニューミュージック系のスタジオセッションでも活躍、またビル・モンロー＆ブルー・グラス・ボーイズやザ・チーフタンズなどとの共演をはじめ、バンジョー、フィドル、ギター等をこなすマルチ・アコースティック・プレイヤーでもある。

grass roots music workshopとは

音楽ジャンルや楽器種類に関係なく、ルーツ音楽の本質である「伝承」の仕方で音楽を「極める」ノウハウを紹介するワークショップシリーズです。

サイトポリシー	> enocoについて	> クリエイティブルーム	> enocoのプロジェクト	Like 943 ツイート	^
指定管理者	> フロアガイド	> サポーター募集	> enocoの学校		
バナー広告募集	> enocoのつかい方	> メールニュース登録	> 大阪府20世紀コレクション		
プレスリリース	> 空き状況	> Q&A	> ライブラリー		
	> アクセス	> お問い合わせ	> サポーターものづくりルーム		
		> プラットフォーム 形成支援事業			